

- 千島海溝津波襲来時の陸側遮水壁の冷媒（ブライン※）漏えいリスク低減を目的として、新たに追設した電動弁（8弁）のうち、陸側遮水壁測温管150-7Sの温度上昇に伴う調査に影響を及ぼさない範囲（4弁）で、11月29日から12月1日にかけて単体動作試験を実施しました。試験中の測温管温度の上昇は最大で約1.0℃程度で、影響はありませんでした。
- 残る動作確認が未実施の電動弁（4弁）の単体動作試験、および全体的な統合動作試験は、2月15日に実施することといたしました。
- 本試験にあたっては、約12.5時間、陸側遮水壁全体のブライン供給を停止しますが、外気温が低く、降雨も少ない今の時期が、150-7Sを含む測温管の温度上昇への影響が抑制できること、また、津波襲来の備えを早期に準備する必要があること等から、今回、実施することとしたものです。
- 本試験に先立ち、机上評価を行い、約12.5時間のブライン供給停止が、陸側遮水壁の遮水機能に影響がないことを確認したため、2月8日に、当該測温管付近のブライン供給を実際に約12.5時間停止して、測温管の温度上昇およびブライン再循環後の温度低下等を確認する、ブライン供給停止評価試験を行います。この評価試験で、当該測温管に過度な温度上昇がないこと、遮水機能に影響がないことを確認した上で、2月15日の試験を実施する予定です。
- なお、電動弁の単体、統合動作試験完了後、測温管の温度上昇調査の一環である試験的止水措置（鋼矢板設置）については、準備が整い次第、実施する予定です。

※ブライン：塩化カルシウム水溶液（降雪時、道路に散布する融雪剤と同じ成分）

[＜2022年2月7日までにお知らせ済み＞](#)

- 2月8日に実施したブライン供給停止評価試験後、5日間の温度監視を行った結果、当該測温管に温度上昇は見られず、遮水機能に影響がないことを確認したため、予定通り2月15日に、動作確認が未実施な電動弁（4弁）の単体動作試験、および全体的な統合動作試験を実施する予定です。
- 上記、試験実施にあたっては、陸側遮水壁の機能を維持するための管理体制を確立し、安全最優先で取り組んでまいります。

# 参考. ブライン供給停止評価試験による 測温管(150-7S)への影響評価について

- 2月8日、ブライン供給停止評価試験を実施し、予定通り約12.5時間ブラインの供給を停止しました。ブライン供給停止中、測温管150-7S温度に変化は見られませんでした。
- その後5日間、測温管150-7Sの温度監視を継続しましたが、ブライン供給停止による有意な温度変化は見られませんでした。

測温管150-7S 経時変化 (2/14 7:00時点)

